

# 2021年度入学試験問題

## 国 語

(11月21日)

経営学部	経 営 学 科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
法学部	法 律 学 科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
文学部	人 間 学 科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
教育学部	教 育 学 科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
教育学部	児 童 教 育 学 科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
看護学部	看 護 学 科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
国際教養学部	国 際 教 養 学 科	(数学を選択しても可)

開 始 午前 10 時 30 分

終 了 午前 11 時 30 分

### 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は16ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

4. 解答用紙はマーク式と記述式に分かれています。マーク式で 

10
----

 と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	Ⓐ	Ⓑ	◎	Ⓓ	Ⓔ
----	---	---	---	---	---

記述式の解答は(国語・記述式)とある解答用紙に記入してください。

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。





一 次の記事を読んで、後の問一〜九に答えなさい。

二〇世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガーが自慢するところによれば、西洋では「形而上学」という風変わりな学問が古代ギリシア以来絶えることなく営まれてきた。この学問のどこが風変わりかと言えば、たとえば物理学は物理現象を、生物学は生命現象をというぐあいに、科学が特定の対象を専門的に研究するのにたいして、形而上学はそんな限定をいっさい付けずに、ありとあらゆるものを対象にし、しかも、そのありとあらゆるものが「ある」とはどういうことか、「存在とはなにか」を考えるからである。形而上学のこの問いかけにたいして、「存在するとは名前をもつということだ」と答えることもできそうだ。事物の存在と名前の関係は、このようにきわめて緊密だが、一般名詞よりも固有名詞のほうがいっそう緊密である。なにしろ、一般名詞は複数のものをひとつのグループにまとめておいて、それらを十把一絡げに名指すという X ことをするが、固有名詞は事物の一つひとつをキチヨウメンに名指すからである。

名前とそれが名指すものの関係は、固有名詞のなかでも「個人の名前」つまり「人名」においてさらに濃密になる。われわれは自己紹介するとき名前をまず言うし、自分の名前が侮辱されれば、自分自身が侮辱されたかのように腹が立つ。マレーシア領ボルネオ島のカイアン族は、命名式以前に死んでしまった赤ん坊を家族の一員と認めない。母親は子どもの喪に服することができない。名無しの子どもは不名誉であり、タブーなのである。彼らは男の子であれば“Angat”と呼ばれ、女の子であれば“Endun”と呼ばれる。“Angat”は「小さな芋虫」、 “Endun”は「私は知らない」という意味らしい。名無しの子どもは人間あつかいさえてもらえない。世界のさまざまな民族のなかには、自分の本名を他人に明かすことをタブーとするものもある。自分の本名を他人に知られ、その名前と呼ばれると、他人に自分の魂を奪われ、完全に支配されてしまうからである。「名前」は当人もっとも近いものであり、彼のアイデンティティの本質的な部分をなしている。

ところが他方、名前は当人もっとも遠いものでもある。人名はたとえじつさいには同じ名前の人が何人いようと、本質的には世界中でただ一人を名指すことばである。それはいわば当人のドクセン物である。それなのに、人名はすべてのことばのなかで当人が自由に使えない唯一のことばでもある。自分でかつてに名乗れば、「詐称」とみなされる。それをやるのは詐欺師ぐらいのものだ。人は自分の名前をかならず他人からもらい受けなければならぬ。さらに、私の名前は私を名指すはずなのに、私は自分にかんする発言にそれを使えない。たとえば、「私はきのう公園に行った」という発言を、「村岡はきのう公園に行った」という発言に置き換えるわけにはいかない。そんなことをすれば、「村岡とはだれのこと？」と聞きかえされるにちがいない。私の名前はもっぱら他者によってのみ使われるためのことばなのである。

事物や人に名前があるのはまあいいとしても、神様にまで名前があるのはどういうわけだろう。そもそもいったいだれが神様に名前を付けるのか。

それが人間ならポウトク<sup>ウ</sup>というものである。なぜなら、それは神様を人間のレベルにまで引きずり下ろすことにほかならないからだ。神様にふさわしい名前など人間に付けられるわけではない。人間には神様のほんとうのありかた（本質）を知ることなどできないからである。

名前がポウトクにならないのは、神様自身がみずからの名前を人間に告げてくれるばあいだけである。しかし、神様はなぜわざわざ人間ごときに名前を教えてくれるのだろうか。神様は人間に呼びかけてほしいのだろうか。神様は人間と関係することを必要とするのだろうか。もしそうなら、神様が名前をもつということ自体、神様の自立性をそこなうことである。たしかに、ユダヤ教の聖書においては、神はシナイ山上のみずから名前をモーセにあかしたし、神の名前は神と同じぐらい神聖なものとされてきた。人びとはそれをみだりに口にしてはならなかった。ところが、あまりに神の名前を神聖視したため、長いあいだにいったいそれをどう発音していいのかがわからなくなってしまった。ユダヤ教の神はみずからに呼びかけるように名前を教えてくれたのに、それが神の名前であるがゆえにどう呼びかけたらよいのかわからなくなったのである。

さきほど名前は世界のすみずみまで覆い尽くしているといったが、しかし同時に、名前はみずからがつくりだした言語のペールをみずから引き裂き、言語を超えた深淵<sup>え</sup>をのぞき込ませる不気味なものでもある。言語の使命が「名指す」ことにあるとすれば、固有名詞や個人名ほどこの使命を的確に果たしていることばはない。なにしろ、それは目の前であってありありと「見る」ことができるものにかかわるからだ。しかし、目の前で見ているそのものが「なんであるか」を言い表わそうとすると、ただちに困ったことになる。伝統的な考えかたによれば、たとえば「くだもの」という概念（つまり一般名詞）は、このリングやこのミカンやこのナシといった個物を見くらべて抽出した共通の特徴（たとえば樹木に生るとか、湿り気があるといったこと）をその内容としている。したがって、一般名詞はみずからが名指すものにかんして、それは樹木に生るとか、湿り気があるとか語ることができるところが、固有名詞の対象は唯一のものであり、それそのものをひたすら名指すだけなので、名指しているものについて語ることができない。言語は固有名詞においてみずからの本領をもつとも發揮すると同時に、みずからの限界にも出会う。名前は語りうることと語りえないものの境界線にある。

このように、「名前<sup>G</sup>」というものは、「近さと遠さ」、「自己と他者」、「内部と外部」、「語りうることと語りえないこと」といった従来の二項対立ではうまく説明できない不思議なありかたをしている。すべてのものが名前をもつというのはよくよく奇妙な事態なのである。

（村岡晋一『名前の哲学』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

アが 1、イが 2、ウが 3。

ア キチヨウメン

- Ⓐ チヨウボをつける
- Ⓑ 世間のチヨウシヨウを買う
- Ⓒ チヨウゼツした技巧
- Ⓓ 寒さも今がチヨウジヨウだ
- Ⓔ 道路をカクチヨウする

イ ドクセン

- Ⓐ 敵地にセンニユウする
- Ⓑ 開会をセンゲンする
- Ⓒ 証拠の有無をセンサクする
- Ⓓ センレツな印象を受ける
- Ⓔ 土地を不法にセンキヨする

ウ ボウトク

- Ⓐ 国のソンボウをかけて戦う
- Ⓑ ボウドウを鎮圧する
- Ⓒ インボウを企てる
- Ⓓ 会議はボウトウから荒れた
- Ⓔ 雑務にボウサツされる

問二 傍線部A「十把一絡げ」の意味は何か。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

4。

- Ⓐ 全体の意味を大雑把につかむこと
- Ⓑ いろいろな種類のものを統合すること
- Ⓒ 一から十まで並べなおし、整理すること
- Ⓓ 何もかも一緒に揃くたに扱うこと
- Ⓔ 共通点を最大公約数的に扱うこと

問三 空欄 X に入る語句として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

5。

- (a) 怠慢な
- (b) 愚かな
- (c) 不真面目な
- (d) 傲慢な
- (e) 変な

問四 傍線部B「人名」においてさらに濃密になる」の内容として筆者が挙げているものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークし

なさい。解答番号は、

6。

- (a) 人名がその人自身であること
- (b) 人名がその人の価値を決めること
- (c) 人名がその人と一体化していること
- (d) 人名がその人の存在意義であること
- (e) 人名がその人のアイデンティティの一つであること

問五 傍線部C「名無しの子ども」のエピソードを通して筆者が言おうとしていることは何か。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄

の記号をマークしなさい。解答番号は、

7。

- (a) 名前の無い子どもが人間あつかいされず、お葬式も出してもらえない哀れな存在であること
- (b) 幼くして死ぬ不幸があつてはならないという強いタブーの意識が人名に関して存在すること
- (c) 名前が無いものは存在しないと認識されるほど、人名と存在の関係が密接であること
- (d) 名前をつける行為は民族や集団の意思が反映され、名前と人が濃密な関係にあること
- (e) 名前が無ければ、侮辱されたり支配されたりすることがないと考える民族がいること

問六 傍線部D「神様の自立性」とは何か。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、8。

- ① 神様が人間と関わりながらも、信仰の対象として独立していること
- ② 神様が世界で唯一無比の存在として位置付けられること
- ③ 神様は神聖であり、その名をみだりに口にしてはいけないということ
- ④ 神様は名前を持たず、ただ「神様」ということばだけが存在すること
- ⑤ 神様が他の存在との関係、または、その前提なしに存在すること

問七 傍線部E「みずからがつくりだした言語のペール」とは何か。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、9。

- ① 「ある」ということ
- ② 「名指す」ということ
- ③ 「見る」ということ
- ④ 「なんであるか」を言い表すこと
- ⑤ 「語る」ということ

問八 傍線部F「言語を超えた深淵」とは何か、三十五字以内で説明しなさい（句読点も一字と数える）。解答番号は、I。

問九

傍線部G「名前」というものは、「近さと遠さ」、「自己と他者」、「内部と外部」、「語りうることと語りえないこと」といった従来の二項対立ではうまく説明できない不思議なありかたをしている」とあるが、本文の中で説明されていないものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

10
----

。

- ㉑ 近さと遠さ
- ㉒ 自己と他者
- ㉓ 内部と外部
- ㉔ 語りうることと語りえないこと
- ㉕ 不思議なありかた

次の文章を読んで、後の問一〜七に答えなさい。

私は慌ただしく洗濯物を取り込んでいる。その様子を見た弟が「どうしたの？」と訊く。私は「お昼から降水確率九〇%だって」と答える。私が弟に「お昼から降水確率九〇%だって」と言ったとき、私はそれによって午後雨降るということを意味したとしよう。このとき、私が意味したことと私の心理とのあいだには何かの関係があるように思える。もつと言えば、私が意味した事柄は、チョツカン<sup>ア</sup>的に言うならば、何か私の「心のうち」を表明したものに見える。これはいったいかなる現象なのだろうか？

いまの例をさらに検討してみよう。「お昼から降水確率九〇%だって」と言うことで午後雨降るということを私が意味したとき、それを受け取った弟には何が得られるだろうか？ 午後雨降るといふ情報が得られる、と言いたくなるかもしれない。だがこれは実ほそれほど確かではない。天気は予想に反して崩れず、午後になっても雨は降らないかもしれない。弟にわかるのは、実際に午後雨降るといふことではなく、せいぜい午後雨降ると少なくとも私は信じているということだろう。

X

しかしそうした事情がない限りは、弟は午後雨降るといふ信念を私に帰属するはずだ。

言うまでもなく、何かを意味するという行為に限らず、行為というものは一般的にその主体の心理と関係している。雨が降っているのに気づいて傘を差すひとを見れば、私たちにはそのひとの心理についていくらかのことがわかるはずだ。おそらくそのひとは傘を差せば濡れずに済むと信じていて、そして濡れずに済ませたいと欲しているのだろう。行為はその主体の信念と欲求によって説明される。その意味では、

Y

だが話し手の意味と話し手の心理の関係の仕方は独特だ。傘を差すといった通常の行為と違い、何かを意味するというのはそれ自体が内容を伴った行為である。そして先に見た例からわかるように、話し手が意味する内容と話し手が持つとされる信念の内容は一致すると考えられる。傘を差すなどの行為はそのようなものではない。もちろん普通の状況ならば、傘を差すという行為は傘を差せば濡れずに済むという信念と結びつくものと思われるだろう。だがこれはあくまでその行為の主体が、濡れたくないという欲求を持っているという条件のもとでのことだ。常識的な状況では考えにくいことだが、もしかしたら傘を差すという行為の主体は、実際にはむしろ水に濡れたいという欲求を持っている、どういうわけか傘を差せば効率よく濡れることができるという奇妙な信念を持っていたがゆえに、結果として傘を差したにすぎないということも、原理的にはあり得る。したがって、傘を差すという行為そのものが傘を差せば濡れずに済むという信念と対応しているとは言えず、どのような信念がこの行為と結びついているのかは、セットになっている欲求次第ということになり、ひとつに決定しきることはできない。話し手の意味はこれとはタイショウ<sup>イ</sup>的だ。午後雨降るといふことを私が意味したならば、私に帰属される信念の候補として焦点が当たるのはあくまで午後雨降るといふ信念であって、別の信念ではない。そして

この対応関係は、話し手が持つ他の心理状態、例えば話し手が持つ欲求には、傘を差すという行為の場合と同様の仕方では左右されない。傘を差すという行為はひとつのタイプの信念と対応しているわけではなく、行為者の他の心理状態次第でさまざまなタイプの信念と結びつき得る。だが話し手の意味は、意味された当の内容と同じ内容を持つ信念と対応関係を持っている。何かを意味するという行為は、通常の行為には見られないような仕方である。話し手の心理と結びついているのである。だからこそ、何かを意味するとき、話し手はいわば対応する信念を「表明している」ように見えるのだ。

これに関連して、話し手の意味することを理解したとき、聞き手には Z が得られるということも指摘できる。弟はもしかしたら私が慌てて洗濯物を取り込んでいたのを怪訝けげんに思っていたかもしれない。だが私が「お昼から降水確率九〇%だって」と言い、それによって午後から雨が降るということを私が意味しているということがわかったなら、そうした私の行為に対する説明が弟には利用可能となる。

普通に考えるならば、これは話し手が何かを意味し、聞き手がそれを理解したならば、聞き手は話し手に対応する信念を帰属できるといふ、先に述べた論点と関係しているように思える。午後から雨が降るといふことを私は意味したのだと弟は理解した、だから弟は私に午後から雨が降るといふ信念を帰属した、だから洗濯物を取り込むという私の行為への説明を弟は手にした、というように。

同様のことは、私のその後の行動に関する予測についても言える。私の発言を聞いた弟は、私の行動をさまざまに予測するだろう。例えば、これから出かけるとすると、私はきつと傘を持っていくはずだと弟は考える。こうしたこともまた、私に対する信念の帰属を介して理解できるように思える。私は午後から雨が降るといふことを意味した、だから私は午後から雨が降ると信じているのだ、だから私は外出時には傘を持っていくだろう、と。

(三木那由他『話し手の意味の心理性と公共性』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)



問三 空欄

Y

に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

14

- Ⓐ 行為と心理とは一般的に結びついている
- Ⓑ 主体の信念と欲求は本質的に同義である
- Ⓒ 信念と欲求は究極的には行為に規定されている
- Ⓓ 意味するという行為の根源的な次元においては欲求が働いている
- Ⓔ 傘を差す行為も何かを意味する行為も原理的には同じ構造を有している

問四

傍線部A「傘を差すなどの行為はそのようなものではない」のはなぜか。その理由を四十字以内で説明しなさい（句読点も一字と数える）。解答番号は、

II

問五

傍線部B「何かを意味するという行為」を説明したものととして、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

15

- Ⓐ 何かを意味するという行為は、それを意味する主体が発話するという行為を必要としている。
- Ⓑ 聞き手は、話し手が意味した内容を理解することによってはじめて話し手の行為の意図を捉えることができる。
- Ⓒ 発話した瞬間に話し手の信念が聞き手に伝わってしまうため、聞き手の受け取り方を意識して情報を発信しなければならない。
- Ⓓ 意味するという行為は他の行為よりも複雑であるため、行為の背景にある信念に焦点を当てなければ理解することができない。
- Ⓔ 話し手が何かを意味したとき、特別な事情がない限りは、聞き手はその意味内容と対応する信念を話し手に帰属することができる。

問六 空欄

Z

に入る表現として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

16

- Ⓐ 話し手の行為の意図や理由
- Ⓑ 話し手の行為に対する説明と予測
- Ⓒ 話し手が示そうとした意味と意図
- Ⓓ 話し手が次にとる行動に対する確信
- Ⓔ 話し手の内面にある聞き手への認識

問七

本文の内容と合致しているものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

17

- Ⓐ 筆者は、雨が降るときの発言を例に、何かを意味するという行為は欲求によって説明できることを明らかにしている。
- Ⓑ 筆者は、傘を差すという行為と何かを意味するという行為を対比させながら、効果的な聞き方について説明している。
- Ⓒ 筆者は、読者に身近な例を詳細に分析することを通して、話し手の意味と心理の関係性について考察を加えている。
- Ⓓ 筆者は、日常的な行為を例にしながら、何かを意味したときに感じられる話し手の信念とは何かを分析的に論じている。
- Ⓔ 筆者は、話し手の意味を推論することの価値を提案することで、読者の日常的なコミュニケーションの改善をねらっている。

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、後の問一〜八に答えなさい。

今日は旧暦では十一月三十日、つごもり（月隠り）、今夜は月のない夜である。

日本と韓国以外のアジア諸国では、旧暦によって人々の生活が推移して行く。私が九年余も滞在してしまつた台湾も例外ではない。月の満ち欠けという日めくりの暦を天空に掲げ持つ生活には、母なる大地に抱かれた言い知れぬ安心感がある。帰国してからも、私は旧暦のカレンダーを手放せないでいる。

台湾在住の後半は、台北市郊外の農村にあるF大学で過ごした。ほとんど四六時中研究室にいて仕事と研究とに明け暮れた。

「私たちは、深夜なおともっている先生の研究室の明かりを仰ぎ見て、何度、心を奮い起こしたことでしよう。明日からはその灯が消えるのだと思うと……」。帰国の前日催された送別の宴で、学生の一人が惜別のジをこう結んだが、私の胸にも去り難くよみがえって来るものは、やはり、喜びも悲しみもそこでもかみしめた研究室での明け暮れであった。

その明け暮れの思い出の中でも、旧暦三十日の夜半に一人聞き入る爆竹の思い出は、今ではもう詩的幻想にまで昇華している。つごもりの夜、十二時を期してどの家でも悪魔祓いの爆竹を幾発も幾発も鳴らすのである。

その時刻が近づくと、私はすべての窓を開け明かりを消して待った。点在する農家も豚小屋も、小川も岡も、檳榔樹や相思樹や楊柳も、やみの中にじっと息を潜めている。星から落ちる薄明かりに、遠い泰山の頂が夜霧の中で鈍い光を放つのがうかがわれた。

十二時。それは、やみの底から一斉にわき起こるのだ。高音のそれは叫ぶがごとく、低音のそれはうめくがごとく。はるかのものに琴の爪弾きを聞き、水鶏のたたかど耳をそばだてさせ、これを打ち消す太鼓連打ながらの響き、いきなり足下に戦乱の始まるかと驚くごう音。あるものはメトロノームのリズムの単調さで、あるものは壮大なシンフォニーが大波浪の百千の飛まつを散らしつつ大海を進むがごとく。雲にこだまし星と呼び交わり、地にはい霧と広がり、黒一色の大地を覆い、聴き入る者の心のやみをも覆い尽くして、今しも名残の一発のシツコクのやみに消え行く時、母の懐に泣きじゃくる幼時の記憶が、見給え、もう満ち足りた寝息を立てている。

—今、僕の中を駆け抜けて行ったものは何？ お母さん。

—フロイトに、いいえ、今夜の X に聞いてごらん

（原土洋『日本事情原論序説』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

アが 、イが 。

ア ジ

- Ⓐ 自動車ジコが起こった
- Ⓑ 一番日の短いトウジの日
- Ⓒ ジヨウのある食べ物
- Ⓓ ジギを得た発言
- Ⓔ 国語ジテンをひく

イ シツコク

- Ⓐ 信用がシツツイした
- Ⓑ シツキでできた小箱
- Ⓒ シツセキを受けた
- Ⓓ 全力でシツソウする
- Ⓔ シツトの目で見る

問二 傍線部A「滞在中に過ごした」と書いた筆者の心情として、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答

番号は、。

- Ⓐ いささか長く無駄な時間を過ごしたという後悔の念
- Ⓑ 思いがけない長期滞在中になったことを悔やむ心
- Ⓒ 充実した生活を振り返りつつ思い出す心情
- Ⓓ 少しの後悔はあるものの滞在中を懐かしむ気持ち
- Ⓔ 滞在中を十分に楽しみきったという思い

問三 傍線部B「母なる大地に抱かれた言い知れぬ安心感」を説明したものととして、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマ

ークしなさい。解答番号は、。

- Ⓐ 動かぬ大地の上で確実な人生を歩めているという自信
- Ⓑ 自分が自然の中で共に生きているという安らぎ
- Ⓒ 無意識のうちに安定した生き方ができたという幸運
- Ⓓ 回りを豊かな自然に囲まれているという快適な気分
- Ⓔ あざやかな月を眺めて暮らせるという心のゆとり

問四

傍線部C「詩的幻想」とあるが、左の文章の空欄に合うように、本文で爆竹が鳴る様子を詩的に描いた終わりの部分五文字分（句読点を含めない）を記した上で、比喩を手がかりとして、筆者の「詩的」な描き方を、「前半、後半、比喩」の三語を必ず使って（二回以上使用してもよい）五十字程度で説明しなさい。解答番号は、Ⅲ と Ⅳ。

・この文章において爆竹の鳴る様子を詩的に描いた部分は「高音のそれは」から「Ⅲ」の部分である。そこでは、Ⅳ。

問五

傍線部D「水鶏のたたくかと耳をそばだてさせ」とあるが、筆者はどのような気持ちで聞いているのか。最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、22。

- （a） 注意深く聞かないと聞こえない音を聞こうとする気持ち
- （b） 連続する大きな音を待ち望むような気持ち
- （c） 突然聞こえてくる音に驚かないように身構える気持ち
- （d） かすかに聞こえてくる音を静かに待ちわびている気持ち
- （e） 小鳥を棒で追い払うかのような音なので申しわけない気持ち

問六

傍線部E「もう満ち足りた寝息を立てている」とあるが、筆者の心情として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、23。

- （a） 何らいやなことのない穏やかな心が、自分の中を満たしている。
- （b） 幼いころに経験した辛い記憶が、癒やされるかのように感じている。
- （c） 過ぎ去った過去の出来事を、闇夜の中でしみじみと振り返っている。
- （d） 十分におながが満ちたことで、安心した心持ちになっている。
- （e） かつて自分が抱いていた不安な気持ちだが、落ち着きを取り戻している。

問七 空欄  に入る言葉として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、。

- Ⓐ 雲
- Ⓑ 星
- Ⓒ 霧
- Ⓓ 爆竹
- Ⓔ 花火

問八 この文章が書かれたのはいつごろと考えられるか。最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、。

- Ⓐ 任地を去る直前のころ
- Ⓑ 任地を去って数日経ったころ
- Ⓒ 任地を去って数ヶ月経ったころ
- Ⓓ 任地を去って数年経ったころ
- Ⓔ 任地を去って回想できなくなったころ









